

2012.08.08

「解散の確約がなければこれ以上は協力しない」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は8月8日、水曜日です。本日、自民党の議員総会がありました。今週になってから、国会は非常に慌ただしくなってきました。本来、我々自民党は税と社会保障の一体改革の法案を今日採決すべきだ、と言ってきました。一方、民主党は20日まで引き延ばす、と言っています。野党である自民、公明党に対し、採決に合意するようにお願いする立場の与党である民主党側が、採決を引き延ばしましょう、と言ってくることは無茶苦茶な話なのです。つまり、彼らの本音はこの法案を通すことにはないのです。この法案を通せば民主党から造反する議員が出ます。そのことを恐れて、少しでも先延ばしにしよう、という事なのです。先週末から、我々は8月8日に採決をしなければ参議院では問責を出す、ということを民主党に通告してきました。そのことを受けて、三党合意に入っていなかった野党の方々が、この法案の採決を阻止しよう、ということで内閣不信任案が提出されたのです。まだ採決はされていませんけれども、実はこの問題を巡ってどうするか、ということで本日自民党の議員総会があったのです。

我々自民党は一体改革の法案には合意しましたが、野田内閣を信任するつもりはないから、不信任案が出れば賛成しなければなりません。これを阻止したければ、早期に一体改革の法案を採決した後に解散するという確約をなさい、

そうしないと採決には応じられない、ということを民主党に主張しました。民主党が、約束をしていた今日の9時に持ってきた返答は、しかるべき将来に国民に信を問いますから、というものでした。将来に信を問うのは当たり前の話で、何の確約にもならないのです。今国会中に解散する、とはっきり明言して頂かないと、参議院でも採決はできないし、野田総理に対して問責を出す、ということになるのです。こういうことを今、民主党側に再度通告しています。

これについては色々な意見が出てきています。例えば、自民党内の中でも、せっかく三党合意まで至ったのだから法案だけでも通せばいいではないか、といった声です。私は、これはあまりにもお人よしだ、と思うのです。三党合意は自民党が潰すのではないのです。我々自民党は採決に賛成するのです。ただし、国会を解散し国民に信を問いなさない、と言っているのです。この法案が国家の将来にとって大事なものだから潰してはならない、と言っている人にはよく考えて頂きたいのです。国の将来にとって問題なのは、野田内閣が一日も長く続く、ということなのです。これを阻止しなければならない、というのはどなたも考えているところです。三党合意を真剣に審議してきた立場の方からすると、国民に対する裏切り行為になるといっている人もいますが、これは全く逆さまの話です。裏切っているのは民主党なのです。

三党合意をし、党内をまとめるから、といていたにも関わらず、どんどん離反者が出てきて、その離反した方々が内閣不信任案、問責決議案を出そうと

しているわけです。まさに三党合意が与党の中から反故にされている。それでも、我々自民党は粛々と審議してきたのです。しかし、法案を採決するに至っては、民主党が解散と言う形できっぱりと身を引いて国民に信を問いなさい、といっているのです。その確約もできないのに、法案だけ通そうとすることが大間違いなのです。

自民党は与党経験が長く、「人が良い」ので、出鱈目を言っている与党、民主党であっても、そこまで言うなら話を聞いてあげようじゃないか、と言う人もいます。この姿勢はまさに、振り込め詐欺に対する注意をどれだけ喚起していても、振り込んでしまうお年寄りに似ているのです。あまりにも人が良すぎます。

我々自民党は断固とした姿勢で、野田内閣から解散を引き出さなくてはならない、と思っております。今日の臨時総会でも私は以上の旨の発言をして参りましたが、是非このビデオレターを御覧になっている皆様方にも広く拡散して頂きたいのです。ややもすれば、国民不在の議論だ、と揶揄する人もいます。しかし、ちょっと待つてほしいのです。現在の危機を招いたのは誰でしょうか。

野田総理です。自ら党内をまとめる力がないにも関わらず、自ら政治生命を賭けて消費増税を含む一体改革法案を通す、と言いだした。ところが、党内でそれはたまらない、ということで逃げ出す人々が出ています。党内の政治基盤が野田総理にはないのです。そのような方に重要な法案を通し、執行していく

資格なんてありません。政治生命を賭けると言うのならば、法案を通して解散総選挙をする、これは当たり前の話です。

このような選択を野党である我々が要求しない、ということ自体、与党ボケでなまくらになっているのです。

そして、今回のこの決断には谷垣総裁自らが政治的な責任を賭けています。私はよくぞ谷垣総裁がそこまで腹を括ったと思っています。この腹を括った覚悟を国民にしっかりと届けて、民主党を打倒するということを国民の皆さんにひろく伝えていかなければと考えています。

今後の展開というのは全く見えていませんが、ゼロ回答ということになりましたら問責をし、参議院での審議を終了させ、採決をさせる訳にはいきません。このような事態になりますと法案は潰れてしまいます。しかしながら、一つだけ残っている方法があるのです。それは 60 日ルールであります。我々が採決をこれでストップさせてしまい、参議院に法案が送付されて 60 日たちますと、否決とみなされます。それが 8 月 25 日の土曜日であります。そして、今国会の会期が 9 月 8 日までありますので、彼ら民主党が本気で法案を通すのでしたら、もう一度衆議院で国会を開き再議決すれば良いのです。しかし、ここで我々自民党が協力すれば衆議院で再議決可能であります。彼らが本当に再議決を望んでいるのなら、野田総理自身が解散の確約を自身の言葉で宣言するよりないのです。いずれに致しましても、我々はこの野田内閣を徹底的に解散に追い

込んでいき、国民の信を問わせます。そして、このことが今の日本にとって一番大事なことであり、統治者能力のない民主党内閣を続けさせることは絶対あってはならないことで、今一度、政界再編も含めた政治の仕組みやあり方を国民に問う事が大事なことであります。このことを皆様方にご理解して頂きたいと思います。

本日も御覧頂きありがとうございました。